【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成20年7月24日(2008.7.24)

【公表番号】特表2004-531598(P2004-531598A)
【公表日】平成16年10月14日(2004.10.14)
【年通号数】公開・登録公報2004-040
【出願番号】特願2002-571453(P2002-571453)
【国際特許分類】
Ｃ０８Ｌ　67/00　(2006.01)
Ｃ０９Ｄ　5/00　(2006.01)
Ｃ０９Ｄ 167/00　(2006.01)
Ｃ０７Ｃ 311/09　(2006.01)
Ｃ０９Ｄ　5/16　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０８Ｌ　67/00
Ｃ０９Ｄ　5/00　Ｚ
Ｃ０９Ｄ 167/00
Ｃ０７Ｃ 311/09
Ｃ０９Ｄ　5/16

【誤訳訂正書】
【提出日】平成20年6月3日(2008.6.3)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００４３
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００４３】
任意に、化合物は、カルボキシレート、スルフェート、スルホネート、ホスフェート、ホスホネート、アンモニウムおよび第四級アンモニウム基からなる群から選択された一個以上の水可溶化基と、ヒドロキシル基またはアシル基と反応性を示す少なくとも一個の求電子性部分または求核性部分を有する化合物とさらに反応することによって、一個以上の水可溶化基をさらに含んでもよい。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００４４
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００４４】
任意に、化合物は、一個以上の重合性基と、ヒドロキシル基またはアシル基と反応性を示す少なくとも一個の求電子性部分または求核性部分を有する化合物とさらに反応することによって、一個以上の重合性基をさらに含んでもよい。
【誤訳訂正３】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００３８
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００３８】
「パーフルオロ化基」とは、炭素に結合された水素原子のすべてまたは本質的にすべて

が弗素原子で置換されている有機基、例えば、パーフルオロアルキルおよびパーフルオロヘテロアルキルなどを意味する。
【誤訳訂正４】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００７８
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００７８】
エステル分子の混合物を含む本発明のフルオロケミカル組成物を調製する際に有用なフルオロケミカル一官能性化合物には、少なくとも一個のR_f基を含む化合物が挙げられる。R_f基は、直鎖、分枝鎖、または環式弗素化アルキレン基またはそれらのいずれかの組み合わせを含むことが可能である。R_f基は、任意に、炭素－炭素鎖中に一個以上のヘテロ原子（すなわち、酸素、硫黄および／または窒素）を含んで、炭素－ヘテロ原子－炭素鎖（すなわち、ヘテロアルキレン基）を作ることが可能である。全弗素化基は一般に好ましいが、いずれの一個より多い原子が二個の炭素原子ごとに存在しない限り水素原子または塩素原子も置換基として存在することが可能である。あらゆるR_f基が少なくとも約４０重量％の弗素、より好ましくは少なくとも約５０重量％の弗素を含むことがさらに好ましい。基の末端部分は、一般に完全に弗素化され、好ましくは、少なくとも３個の弗素原子を含む。例えば、CF_3O－、CF_3CF_2－、$CF_3CF_2CF_2$－、$(CH_3)_2N$－、$(CF_3)_2CF$－、SF_5CF_2－である。パーフルオロ化脂肪族基（すなわち、式C_nF_{2n+1}－のもの）、ここでｎ＝１～１２は好ましいR_f基であり、ｎ＝６以下はより好ましく、ｎ＝３～５は最も好ましい。さらに、フルオロケミカル一官能性化合物が室温より高い融点を有することが好ましい。固体フルオロケミカル一官能性化合物から誘導されたオリゴマーが、より低い融点の化合物より高い接触角性能示すことが見出された。